



遺跡が語る



や よい こ ふん じ だい い みず

# 弥生・古墳時代の射水



富山県射水市教育委員会

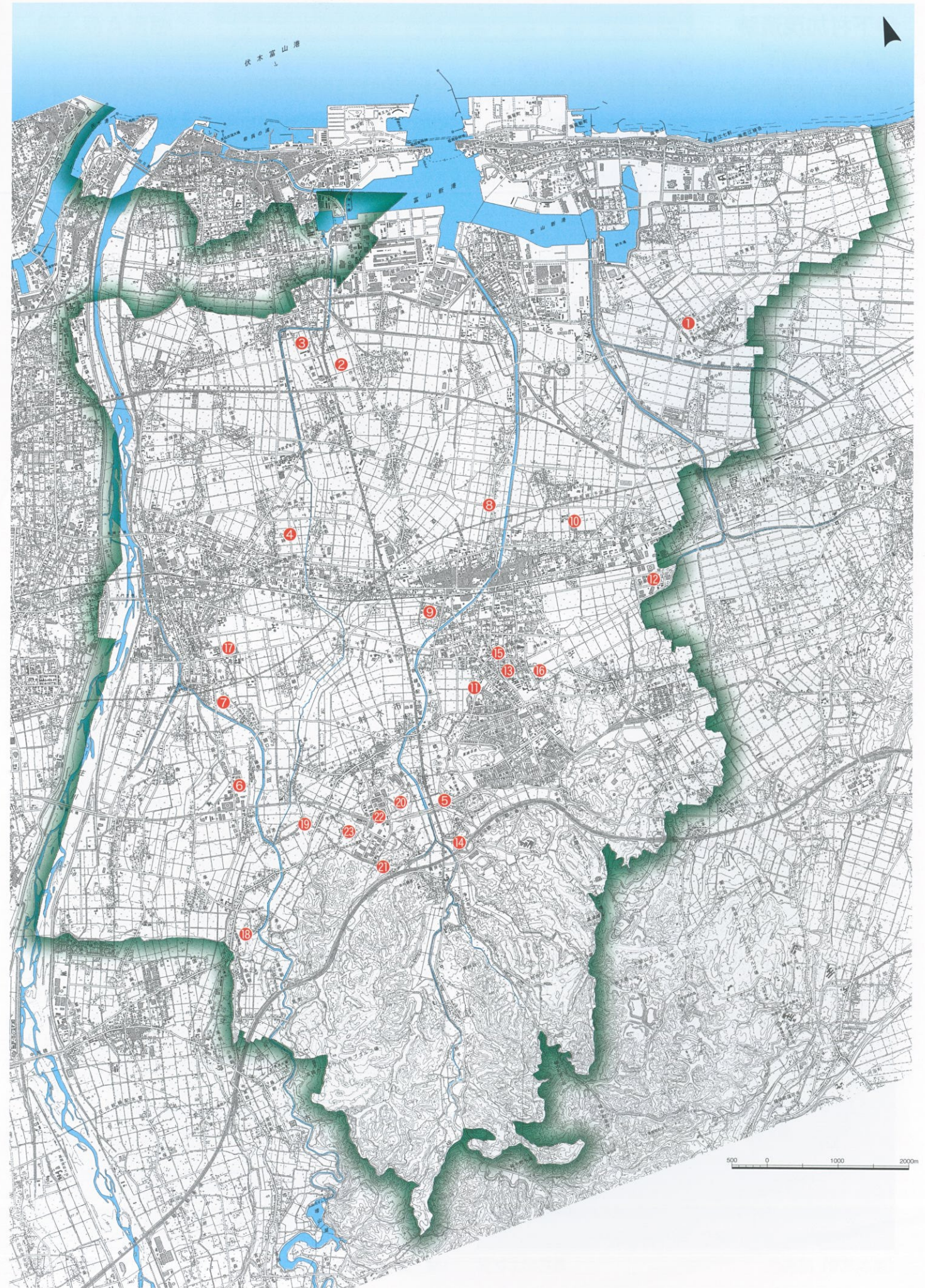
# 目次

弥生・古墳時代の射水	1
① 下村加茂遺跡 (しもむらかもいせき)	3
② 作道遺跡 (つくりみちいせき)	3
③ 高島A遺跡 (たかしまえいせき)	4
④ 小林遺跡 (こばやしいせき)	5
⑤ 南太閤山I遺跡 (みなみたいこうやまいちいせき)	5
⑥ 布目沢北遺跡 (ぬのめざわきたいせき)	6
⑦ 本江畑田I遺跡 (ほんごうはたけだいちいせき)	6
⑧ 愛宕遺跡 (あたごいせき)	7
⑨ 小杉伊勢領遺跡 (こすぎいせりょういせき)	8
⑩ 戸破若宮遺跡 (ひばりわかみやいせき)	8
⑪ 困山遺跡 (かこいやまいせき)	9
⑫ 針原東遺跡 (はりわらひがしいせき)	9
⑬ 中山南遺跡 (なかやまなみいせき)	10
⑭ 上野遺跡 (うわのいせき)	10
⑮ 中山中遺跡 (なかやまなかいせき)	11
⑯ 一ツ山古墳群 (ひとつやまこふんぐん)	11
⑰ 二口油免遺跡 (ふたくちあぶらめんいせき)	12
⑱ 串田新遺跡 (くしたしんいせき)	12
⑲ 大塚古墳 (おおつかこふん)	12
⑳ 五歩一古墳群 (ごふいちこふんぐん)	13
㉑ 丸山古墳 (まるやまこふん)	13
㉒ 小杉流通業務団地内遺跡 (こすぎりゅうつうぎょうむだんちないいせき)	14
㉓ 小杉丸山遺跡 (こすぎまるやまいせき)	14

※本書作成にあたり、富山県埋蔵文化財センターより資料提供でご協力いただきました。

## 弥生・古墳時代の射水

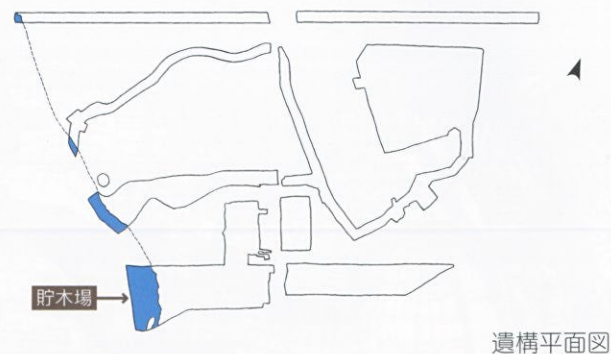
射水平野は、東の神通川・西の庄川に挟まれた東西約11km・南北約7km範囲の低湿地帯にあります。約10,000年～8,000年前（縄文時代草創期～早期）に形成された扇状地性三角州沖積平野といい、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積しています。この時代は海岸線が沖へ後退し、平野部は現地形より広範囲であったと考えられます。しかし、約3,000年前（縄文時代晩期前葉）には今とほぼ同地形になったと考えられています。また、河川による土砂堆積で、かつての海は小さく放生津潟として形を残し、周辺はその潟の水面と標高差が殆どない湿原や河川の流が澱み沼沢地も現れます。その後、湿原植物が枯れて泥炭が堆積し平野部が形成されます。このような自然環境下で、先人達は縄文時代より丘陵部を中心に生活を営んでいます。弥生時代になると縄文時代には湿地帯であった地域も次第に陸地化し、約2,000年前（弥生時代中期）頃には集落遺跡が各地に点在してきます。これは平野部において稲作が広まり始め、水田を営むうえで欠かせない水源を求め、河川周辺に定住化したことが要因と考えられています。古墳時代になると丘陵部を中心に古墳が造られてきます。市内最大の前方後円墳（全長43.3m）である五歩一古墳群1号墳は、射水丘陵をまとめていた首長が被葬者である可能性が考えられます。このように、弥生・古墳時代は食糧生産の技術進化、集落定住化による遺跡や人口の増加、方形周溝墓から古墳へ変化していく墓制や築造過程、古代豪族「射水臣」の勢力伸張など、「射水」地域形成の歴史を知るうえで重要な時代に位置づけられます。現在459箇所の埋蔵文化財包蔵地のうち、約3割の142箇所において弥生・古墳時代の遺跡が確認されています。



しむらか もいせき  
① 下村加茂遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は富山湾より南東約1.5km、標高0.4mに位置します。平成9年、調査区西端を流れていた鍛冶川旧河道の淀みを利用した貯木場及び木製品加工場が発見されました。切り出してきたままの丸太やそれらの木で作った農具（鋤・鋤柄・堅杵）や漁労具（櫂・たも網）、祭祀具（鳥形・剣形）、板や柱の建築部材等が総数400点出土しました。木製農具は、富山県内最古級と考えられ、米作りの開始時期を解明する上で貴重な遺跡です。



貯木場



木製品

つくりみち いせき  
② 作道遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は射水平野北部の国道8号線北側、標高0.4～0.8m、放生津湯縁辺部の低湿地に位置します。弥生時代中期の集落遺跡で、土器や石製品（磨製石斧・石包丁・管玉など）が出土しました。なかには縄文を施した栗林式土器（長野県北部）や、全面を研磨した榎田型の磨製石斧（中部高地）などの富山県外からの搬入品も含まれていました。これらの遺物の発見により、遠く信州との活発な交流活動をうかがい知ることができます。



遺物出土状況

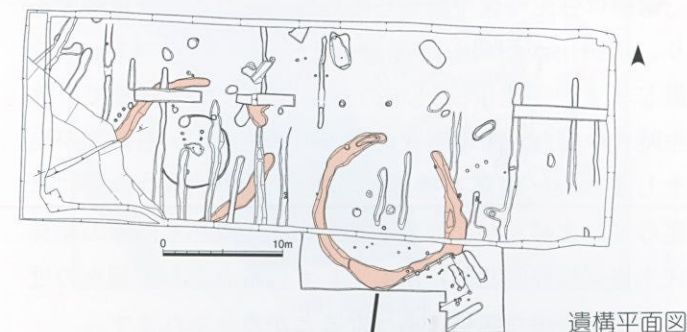


弥生土器（壺・甕・土玉）

たかしまえい いせき  
③ 高島A遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は庄川右岸、標高1.5m前後の沖積低地に位置します。平成18年、弥生時代中期の周溝をもつ平地式建物跡が発見されました。炭化材や焼土が含まれることから「焼失住居」と考えられ、建物構造を知る上で良好な資料となりました。また平成17年、三角形の片面をくりぬいた2枚貝のような石製品（蛇紋岩製）が出土しました。共伴遺物から弥生時代後期と考えていますが、装飾突起が縄文時代晩期の土器と似ており、形状も全国にも類例がなく、今後の調査研究に解明が待たれます。



炭化物・焼土検出（平地式建物跡内）



2号平地式建物跡



弥生土器（壺・甕・鉢）



石製品（蛇紋岩製）

こばやし い せき  
4 小林遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は弥生時代中期から江戸時代に至る複合遺跡であり、和田川が形成した微高地上、標高4.2～4.7mに位置します。平成9～11年の道路建設に伴う調査で、弥生時代中期から古墳時代前期の土器・勾玉・石鏃等が出土しました。集落を構成するような建物跡の発見には至っていませんが、作道遺跡・高島A遺跡と同様の栗林式土器（長野県北部）が出土している点から、個々の近隣集落が密接な関係にあったことが考えられます。



G地区遺構全景



弥生土器（壺・甕・鉢）

みなみたいこうやまいち い せき  
5 南太閤山 I 遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は下条川右岸、最高地点標高34mの東西に延びる尾根上に位置します。昭和56～59年、丘陵上にある弥生時代後期の墓群（土坑墓・方形周溝墓・台状墓）と谷部にある古墳時代中期の水路跡・堰が発見されました。墓は15基、埋葬主体部は16箇所、副葬品には管玉・ガラス玉・勾玉があり、供献された土器（壺・高坏・器台等）も周溝や木棺内から出土しました。3群で構成された墓群は、2～3代にわたる世帯ごとの墓と見られ、時期を追って順に家族を追葬していく家族墓の状況そのものを物語っていると考えます。



墓群遺構平面図



6号墓

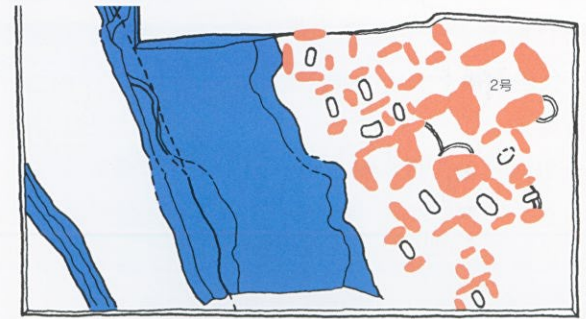


供献土器出土（6号墓溝内）

ぬのめざわきたい い せき  
6 布目沢北遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は西に庄川、東に和田川、それらに挟まれた扇状地末端、標高8.4～10.0mに位置します。平成2～6年、弥生時代後期の<sup>たてあなたてものあと</sup> 竪穴建物跡や終末期の方形周溝墓などが発見されました。墓は19基、重なり合うものではなく、順次構築されたとみられます。周溝外側で14m前後（110㎡以上）の大規模から、6m前後（60㎡未満）の小規模なものまであり、規模の違いが被葬者の階層性（身分の差）を表していると考えられます。



：方形周溝墓

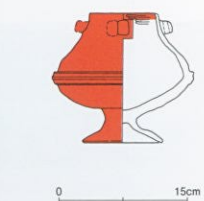
1地区遺構平面図



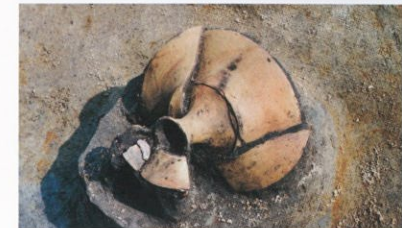
2号方形周溝墓



台付裝飾壺・器台出土状況



実測図



ほんこうはたけだいち い せき  
7 本江畑田 I 遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は和田川右岸の扇状地上、標高8.5～9.1mに位置します。弥生時代後期後半から古墳時代前期の集落遺跡で、土器や玉製品（未成品・剥片も含む）が出土しました。発見された玉作り工房付近には、地元住民より墳丘のような盛り上りが昔あったとされ、墓への副葬品として工房で生産していたものと考えられます。また炭化米が見つかり、農業を生業とする集落が必要に応じて、玉作り作業も行っていたことも分かりました。



周溝式掘立柱建物跡（9地区）



玉製品（勾玉・管玉・ガラス玉）

あたらせいせき  
8 愛宕遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は射水平野中央部、下条川両岸の低地に位置し、弥生時代後期後半から中世に至る集落跡です。平成22年、新幹線建設に伴う調査で、丸木をくりぬいた上下2段の枠が土中に残る、弥生時代終末期の井戸が発見されました。中からは完形の弥生土器に混じって、細い線で文様を描いた線刻土器が出土しました。また、溝からは直径約6cmの小型仿製鏡（青銅製）と呼ばれる鏡の破片も出土し、遺跡の性格を考える上で共に重要な資料といえます。



B地区遺跡近景



竪穴建物跡 (SI36B)



遺物出土状況 (SD333C)



井戸断割り (SE331C)



玉製品 (勾玉・管玉・磨製石斧)



井戸からの出土土器 (SE331C)



小型仿製鏡



線刻土器

こすぎいせりょういせき  
9 小杉伊勢領遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は下条川左岸、標高5m前後の平野部に位置します。平成3年、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての大溝が発見されました。上幅4.5~7.0m、深さ1.1~1.3mを測り、埋土からは弥生時代後期の法仏期から月影期（土器編年区分）にかけての土器が出土しました。なかには細い線で文様を描いた絵画土器もありました。左端に頭部状、中央から右端に足の表現が曲線で2本描かれていることから、「龍」の絵画土器と考えられます。



大溝 (SD10)



絵画土器「龍」



絵画土器 (壺) 実測図

ひばりわかみやいせき  
10 戸破若宮遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は下条川右岸、標高2.8mの平野部に位置し、弥生時代後期から江戸時代に至る複合遺跡です。平成3年の体育館建設に伴う調査で、弥生時代後期の溝・井戸・土坑が発見されました。井戸は二段掘りの素掘りで、規模は直径約2.1mのほぼ円形で、深さ0.5mの上段部と、この中央に底径約0.8mの円筒形をした深さ1.75mの井戸筒を設けた下段部に区分できました。底面からは弥生土器（壺・甕・鉢）や板材が出土しました。



遺物出土状況 (溝 SD01)



東側調査区近景



井戸 (SE87)

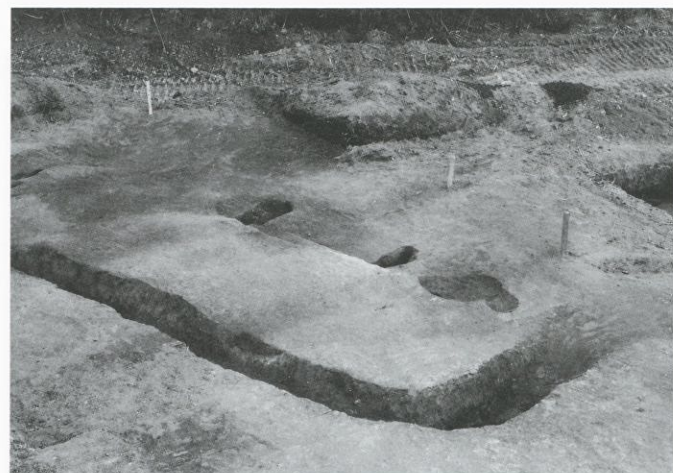
かこいやま い せき  
11 囿山遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は射水丘陵北端、標高約20mに位置します。昭和44年、太閤山住宅団地造成工事中に露見し、緊急発掘調査によって弥生時代後期の方形周溝墓4基・土坑墓4基が発見されました。当時、日本海側における方形周溝墓分布の北限を示す資料として注目されました。副葬品は勾玉（ヒスイ製）・管玉・鉄鏃が出土し、被葬者の階層を示すものと考えられます。調査箇所は、その重要性から富山県指定史跡として整備保存されています。



史跡近景



1号方形周溝墓



遺構平面図  
 〇：方形周溝墓  
 □：土坑墓



勾玉・管玉・鉄鏃

はりわらひがし い せき  
12 針原東遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は射水丘陵から北へ約2km進んだ標高2.3m前後の平野部微高地上に位置します。縄文時代晩期から江戸時代にかけての複合遺跡で、弥生時代では後期の溝・井戸・土坑が発見されました。幅約10mの大溝（SD10）の下層からは縄文土器が出土し、縄文時代から室町時代まで、自然に埋没していくまで機能していた溝と考えられます。井戸（SE201）は深さ2.04m、下段に一木からくり貫いた桶を転用したものを利用していました。



井戸断割り (SE201)



大溝 (SD10)

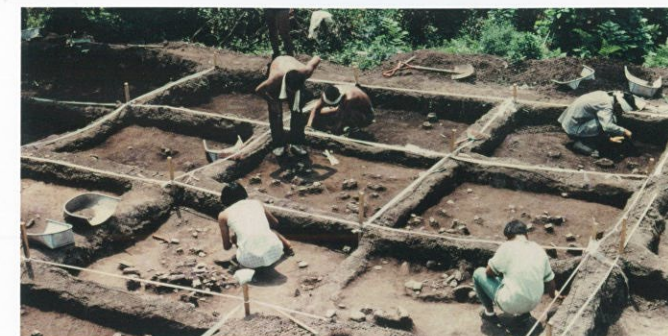


弥生土器（壺・甕・鉢）

なかやまのみ い せき  
13 中山南遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は射水丘陵北端、標高約20mに位置します。太閤山住宅団地造成時に発見され、昭和39年～43年までに6次の発掘調査が実施され、竪穴建物跡9棟・円形土坑7基・円形周溝など、弥生時代終末期から古墳時代初期にかけての集落跡が発見されました。台付長頸壺や大型器台の特徴的な土器が出土し、当時の北陸の土器編年の標識資料とされました。調査箇所は、その貴重性から富山県指定史跡中山公園として保存されています。



調査状況



中山公園



遺物出土状況

うわの い せき  
14 上野遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

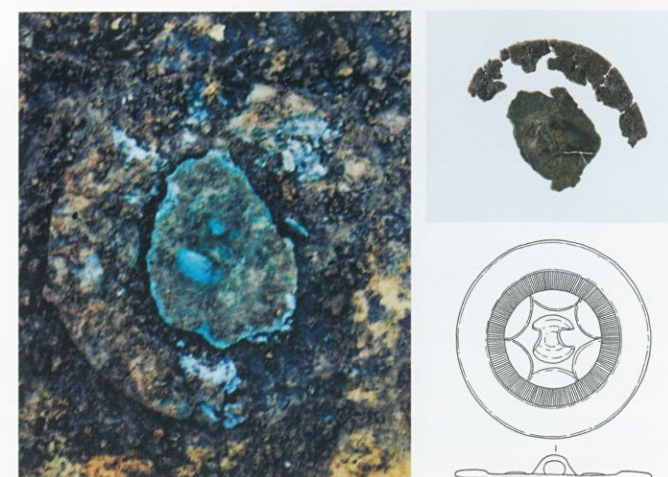
遺跡は下条川右岸、上野山と呼ばれる台地上に位置します。昭和45～47年、高速道路建設に伴う調査で、旧石器時代から近世までの遺構・遺物が発見されました。弥生時代終末期の竪穴建物跡4棟が確認され、最大規模の2号竪穴建物跡は、9本の主柱穴・直径約12mの円形のものでした。床面からは直径約7.2cmの内行花文鏡が出土しました。鏡は農耕祭祀の道具として、祭祀を司る集落の長がもつものと考えられています。



遺跡遠景



2号竪穴建物跡（第Ⅲ台地）



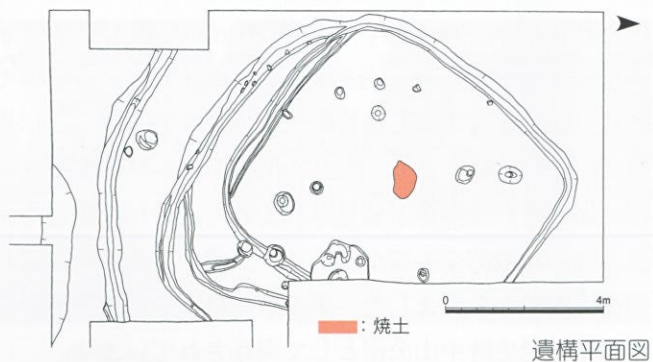
鏡出土状況

復元図

なかやまなか いせき  
15 中山中遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は射水丘陵と平野が接する丘陵先端部、標高約16mに位置します。旧石器から平安時代までの複合遺跡として昭和33年に町指定史跡となりました。過去の調査から、弥生時代終末期から古墳時代初期の竪穴建物跡4棟や古墳時代後期（5世紀後半～6世紀代）の円墳の周溝と推定できる溝6箇所が発見されました。谷一つ南に隔てた中山南遺跡でも同じ遺構が発見されており、丘陵を単位とする関係が比較できる貴重な遺跡です。



竪穴建物跡 (SI102)

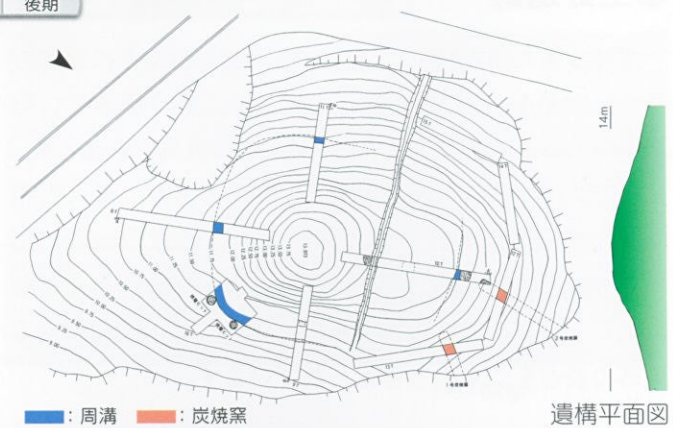


弥生土器 (甕・高坏・器台・蓋)

ひとつやまこふんぐん  
16 一ツ山古墳群

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

古墳群は射水丘陵が北方へ舌状に張り出す台地上に位置し、2基の墳墓が確認されました。1号墓の頂部は標高約14m、規模は東西径20m・南北径26mを測り、墳形は長方形又は前方後方形と考えられます。頂部付近では盛土が確認され、弥生時代後期の土器も発見されました。2号墓は1号墓より約140m南側、台地の最高地点に位置します。付近に見られる五歩一古墳のような大型古墳へと移り変わる祖形な墳墓と考えられます。



1号墓

ふたくちあぶらめん いせき  
17 二口油免遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は射水平野西端部、標高7m前後に位置します。古墳時代前期の方墳跡が発見されました。1辺約19m、幅1.5m、深さ0.7～1.2mの周溝を方形に区画し、北東面には墓道を設けていました。主体部の墳丘は消滅していましたが、地権者によれば昭和10年頃までは存在していたそうです。周溝から出土した土器は、赤彩土器とも呼ばれ、ベンガラの実をつぶした朱（赤色）を表面に塗り、儀式に使用するものとして区別されていました。



遺物出土状況 (土坑 SK118)



1号方墳

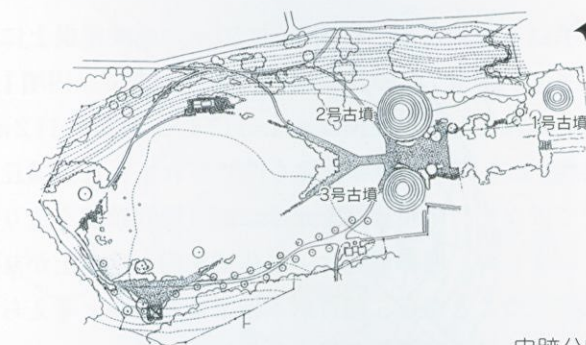


赤彩土器 (垂・鉢・器台・蓋)

くいたしん いせき  
18 串田新遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

古墳時代前期と考えられる円墳3基が史跡公園内北側に現存しています。昭和47・54年、墳墓群と隣接して東西に二つの集落跡（住居址）が発見されました。墓域と居住域の関連性を解明する良好な遺跡です。



史跡公園図

おおつかこふん  
19 大塚古墳

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

射水丘陵の西側外縁の台地上に位置し、墳丘の直径36.5m、高さ約6mの円墳です。周辺では最大規模であり、この地域の首長墓（推定5世紀）と考えられます。



大塚古墳



串田新遺跡

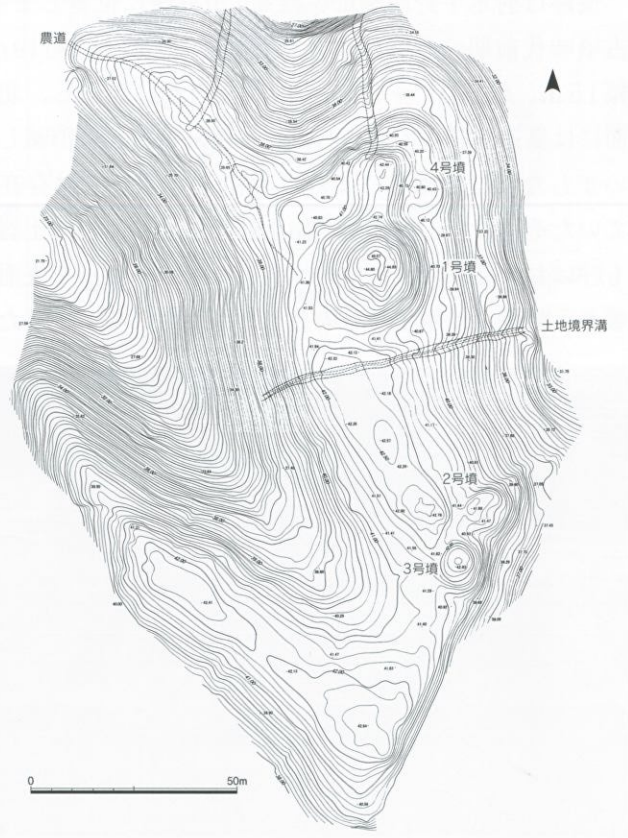
こふいちこふんぐん  
20 五歩一古墳群

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期?	中期	後期

古墳群は下条川左岸、標高約41mの丘陵上に位置します。平成21年の現況測量調査で、従前からの3基に加え、新たに1基の円墳が発見されました。丘陵北端部に位置する全長約43.3m（市内最大）の1号墳は、これまで前方後方墳と考えられていましたが、後円部の等高線がほぼ正円形であることから、前方後円墳と確定することができました。下条川流域を支配した首長墓と考えられます。残り3基は全て直径約14m規模の円墳でした。



五歩一古墳群遠景



現況測量図

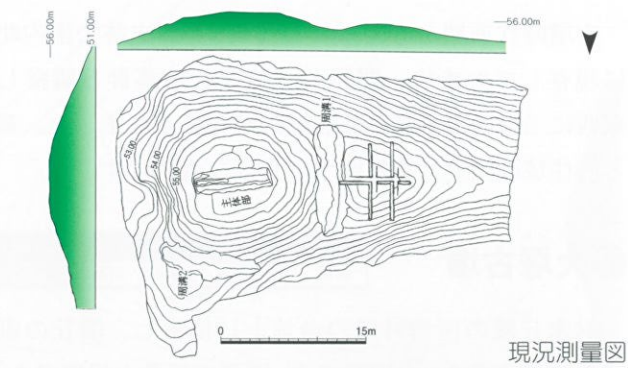
まるやまこふん  
21 丸山古墳

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期?	後期

古墳は下条川左岸、標高54～56mの丘陵尾根上に位置します。平成7年の民間開発に伴う調査で、円墳1基が発見されました。規模は南北約13.4m、東西約11.2m、墳高約2mを測り、埋葬施設も確認されました。墳丘は盛土ではなく、尾根頂部を水平に削り墳丘頂部を造り出していました。埋葬形態は、主体部床面の立ち上がりがあり丸みをもつことから、割竹形木棺ではないかと考えられます。遺物は土師器片が出土しました。



丸山古墳遠景



現況測量図



主体部

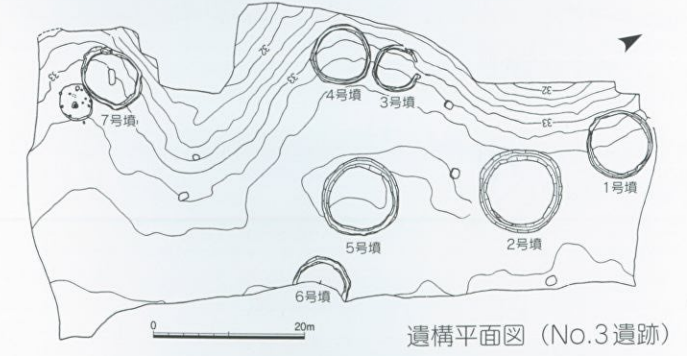
こさぎりゅうつうぎょうむだんちないせき  
22 小杉流通業務団地内遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

遺跡は下条川左岸、標高20～35mの丘陵縁辺部に位置し、昭和52年～平成7年まで14次にわたる発掘調査が実施されました。縄文時代中期から中世にかけての複合遺跡（集落跡・古墳・窯跡・製鉄跡）で、古墳時代では中期以降（5世紀後半～6世紀中頃）の円墳21基が発見されました。No.3遺跡・No.7遺跡では共に8基の群集墳が形成されていました。副葬品は白玉・ガラス玉等の玉製品や鉄鏃・刀子等の鉄製品が出土しました。



1・2号墳 (No.3遺跡)



遺構平面図 (No.3遺跡)



白玉・ガラス玉・管玉・勾玉

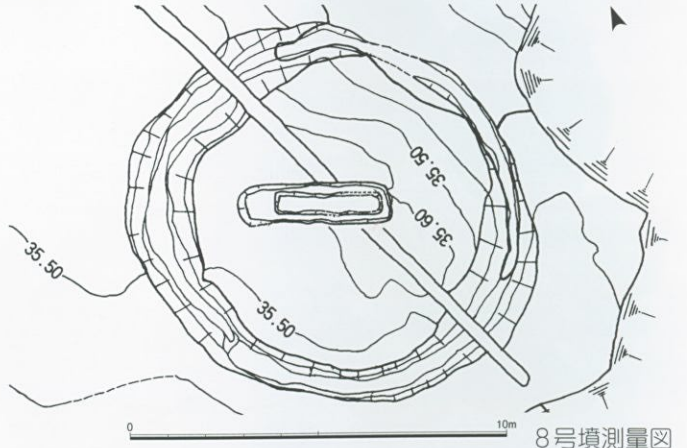
こさぎまるやまいせき  
23 小杉丸山遺跡

弥生時代			古墳時代		
前期	中期	後期	前期	中期	後期

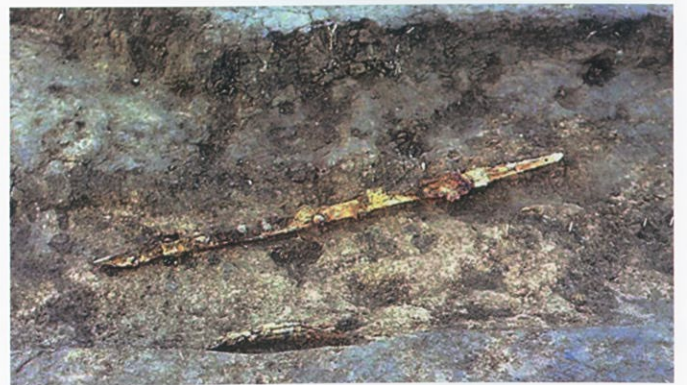
遺跡は流通業務団地内遺跡 No.11 遺跡として調査された後に、名称変更された小杉丸山遺跡内に位置します。8基の円墳からなる古墳群（6世紀後半）は、丘陵上ほぼ直線的に並び3群に分かれていました。最高地点に位置する8号墳は直径約13m、埋葬施設は箱形木棺と考えられます。副葬品は、鉄製直刀・鉄鏃・ガラス玉（153個）が出土しました。被葬者はガラス玉を胸に、直刀を足元に置き、東枕で埋葬されたと考えられます。



8号墳近景



8号墳測量図



鉄製直刀 (全長94.5cm)





遺跡が語る

## 弥生・古墳時代の射水

発行日／平成27年9月

編集・発行／射水市教育委員会

〒933-0292

富山県射水市加茂中部893番地

TEL 0766-59-8092

印刷／有限会社 山下印刷

このパンフレットは文化庁の地域の特徴ある埋蔵文化財活用事業にて作成しています。